

稲作情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.7

TEL:018-860-3410

FAX:018-860-3834

出穂期は早まる予想。出穂状況を確認して適切な管理を

1 気象経過と生育状況



図1 気象経過と平年値 (アメダス秋田、秋田県農業気象システムから引用)

〈概況〉

7月25日の定点調査結果(あきたこまち)は、草丈は86.3cm(平年比109%)と長く、茎数は413本/m²(平年比92%)と少なく、葉数は13.2葉(平年差+0.6葉)と多く、葉色(SPAD)は34.4(平年比89%)と淡い状況でした。

全ての調査ほ場で減数分裂期を過ぎており、本年の出穂期は早まると予想されます。出穂後は水を多く必要とする時期であるため、用水の確保に努めてください。

表1 水稻定点調査結果(7月25日実施)

	本年	比較	
		平年比・差	前年比・差
草丈	86.3cm	109%	99%
茎数	413本/m ²	92%	85%
葉数	13.2葉	+0.6葉	±0.0葉
葉色(SPAD)	34.4	89%	84%

※ 管内定点ほ場9地点(あきたこまち)の平均値

2 出穂期を正確に把握しましょう

本年の出穂期は平年に比べ早いと見込まれますが、移植日や生育状況によりほ場ごとに前後しますので、斑点米カメムシ類の適期防除のためにも、ほ場をよく確認して正確な出穂期(ほ場全体の40~50%が出穂した日)を把握しましょう。

3 今後の水管理

- ① 7月24日に仙台管区気象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みとなっています。高温条件下では、白未熟粒の発生が多くなることから、次の水管理を徹底しましょう。
- ② 出穂の時期は水を多く必要とするため、出穂後10日間は湛水状態を保ちます。その後は間断かん水を基本としますが、気温が30℃以上となる場合は、用水の確保が可能であれば、かけ流しを行います。かけ流しかん水が困難な場合は、落水期間の短い間断かん水や飽水管理(田面に水が染みる程度のかん水)を実施し、水分補給と地温の低下に務めてください。
- ③ 落水時期は、出穂後30日以降としてください。

4 病虫害防除対策を徹底しましょう

(1) いもち病(穂いもち)

- ① 農業振興普及課によるほ場巡回において、葉いもちの発生ほ場が散見されており、穂いもちの発生に注意が必要です。
- ② 穂いもちが発生してからの防除では手遅れになるので、次の防除対策を適期に行います。葉いもちの発生が認められるほ場では、直ちにコラトップ剤(コラトップ1キロ粒剤12、コラトップ豆つぶ、コラトップ粒剤5)、ゴウケツ粒剤/サンブラス粒剤のいずれかを散布するか、出穂直前にトライフロアブルまたはビーム剤と穂揃期にトライフロアブルまたはラブサイド剤の茎葉散布を行います。
- ③ 葉いもちが多発しているほ場では、上記に加え必要に応じて傾穂期にもラブサイド剤による追加防除を行います。また、用水が確保できず湛水できない場合は、茎葉散布剤を選択して防除してください。
- ④ 本年は出穂期が平年より早まるほ場が多くなると見込まれるため、防除時期を逸さないように注意します。
- ⑤ 本田での総使用回数は、テブフロキン剤(トライ剤)は2回以内、フサライド剤(ラブサイド剤、ブラシン剤等)は3回以内、トリシクラゾール剤(ビーム剤、ノンブラス剤等)は3回以内となっているため注意しましょう。

(2) 紋枯病

- ① 穂ばらみ期~出穂期の発病株率が15%を超える場合は、出穂直前~穂揃期にバシタック剤、バリダシン剤、モンカット剤、モンセレン剤のいずれかを株元に到達するように丁寧に散布します。出穂直前の防除が効果的ですが、多発が予想される場合は出穂以降にも散布します。

(3) 斑点米カメムシ類

- ① 7月18日に県病害虫防除所から斑点米カメムシ類の防除対策情報が発表されました。畦畔に出穂しているイネ科雑草があるほ場で、畦畔における斑点米カメムシ類の発生が多くなっています。
- ② 出穂期(ほ場全体の40～50%が出穂した日)の把握に努め、出穂期10日後頃にアルバリン剤またはスタークル剤を、畦畔を含めたほ場全体に茎葉散布します。特に、本年は出穂期が早まると予想されるため、散布時期に注意します。
- ③ 1回目防除の散布当日から7日後までに畦畔や農道の草刈りを必ず行い、斑点米カメムシ類の増殖源となるイネ科雑草を除去します。
- ④ 水田内に出穂したノビエやホタルイ類等が発生しているほ場、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田等に隣接しているほ場では、出穂期10日後頃の薬剤防除に加え同24日後頃にもエクシード剤またはキラップ剤を茎葉散布します。

表 斑点米カメムシ類の本田防除と草刈り時期

	6月			7月			8月			9月		
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
本田防除						1回目防除 ←→ 出穂期10日後頃		2回目防除※ ←→ 出穂期24日後頃				
農道・畦畔	←→					←→ 草刈り				←→		
法面・休耕田	←→ 草刈りの徹底			←→ 草刈り禁止			←→ 草刈りの徹底					

出穂15～10日前までに数回行う。水田内のイネ科、カヤツリグサ科雑草の穂はアカスジカスミカメの発生を助長するため除草対策を徹底する。

1回目の茎葉散布剤の散布7日後までに草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草の除去に努める。

稲の収穫2週間前以降から草刈りを実施する。

注)出穂したホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが発生しているほ場やイネ科雑草が主体の牧草地・休耕田等に隣接するほ場、発生予察情報に基づき多発が予想される場合は出穂期10日後頃と同24日後頃の2回防除を必ず実施する。

※殺虫剤を散布する際は、養蜂業者などと連携をとり、蜜蜂などへの危害防止に努めましょう。

※巣箱の設置場所が近接している場合は、蜜蜂が水田に飛来してくることがあるので、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前8時～正午)を避け、できるだけ早朝又は夕方に農薬散布しましょう。

◇次号は8月20日頃の予定です。